

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0370400426
法人名	社会福祉法人 全人会
事業所名	グループホーム 水沢アリス
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85番地 (電話) 0197-51-2151

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	5月2日

【情報提供票より】(平成20年3月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤	13人, 非常勤 6人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費31,500円、日用品4,200円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260	円

(4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥州病院、木村医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、東北本線水沢駅から車で5分、東北新幹線水沢江刺駅から車で25分、東北自動車道水沢インターチェンジから車で6分ほど、県道235号線にも程近いところにあり、隣接して同法人の運営するグループホーム、デイサービスセンターがある。近くには温泉施設や一般住宅などがあり、散歩時には往来の方々との普段の交流が図られている。職員の「あせらずに待つこと」や「利用者の意向をくみ取る」という意識の下、利用者と職員が支えあいながら生活し、いつもホーム内に笑い声と会話が絶えない明るい雰囲気のあるホームである。また、職員は、理念に忠実に全人的な介護の実践を目指して、毎日のケアに当たっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価でターミナルへの取り組みが挙げられていたが、すでに重度化等の対応指針を作成し、医療連携体制加算を得るなど改善が図られ、家族への説明もなされ意向や意見をもらっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から評価の実施について説明し、職員全員で、自己点検を行い、調査票を管理者が取りまとめている。自己点検・評価のプロセスを通して、「栄養等食事づくりの大切さ」など多くの気づきがあり、その共有と改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、本年度2回開催している。内容は、第三者評価の実施や医療連携体制加算の認定など重要な事項の報告・協議、その他、利用者等の状況報告等となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を設置するとともに、面会時にも、意見等を得るようにしている。意見要望等については、日誌等に、こまめに記録、共有(24時間以内に管理者まで到達)するなど、適切な対応に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や地元振興会に加入しており、普段は、回覧版の回付や散歩、買い物や法人の夏祭り等を通して、近隣との交流を図るほか、近隣小学校の総合学習(体験学習)も受け入れて交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通理念「①地球環境を守りながら、国際的視野に立ち行動します。②地域住民のための最善の全人的保健・全人的医療・全人的福祉・全人的介護サービスを提供します。③受け手の方々の生命及び尊厳を守ります。」について、事業所の理念としても職員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共用スペースに「理念」を掲示するほか、毎日のミーティングや毎月の合同会議等で、理念に沿って、利用者のケア事例の検討を行うなど、全職員が理念を確認しあい共有しあって、ケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地元振興会に加入しており、普段は、回覧版のやりとりや散歩、買い物や法人の夏祭り等を通して、近隣との交流を図るほか、近隣小学校の総合学習(体験学習)も受け入れて交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から評価の実施について説明し、職員全員で、自己点検を行い、調査票を管理者が取りまとめている。自己点検・評価のプロセスを通して、「栄養等食事づくりの大切さ」など多くの気づきがあり、その共有と改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本年度2回開催している。内容は、外部評価の実施や医療連携体制加算の認定など重要な事項の報告・協議、その他、利用者等の状況報告等となっている。なお、運営推進会議委員からの意見等は多くはない。	○	推進会議の開催頻度も含めて、委員から多くの意見等が得られる工夫がなされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の機会を通して情報交換するほか、普段は、電話等で相談しながら連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期には、年4回開催のパーティー(雑祭り、全人会まつり、月見会、クリスマス会)で報告するほか、状態変化時はその都度、連絡をとりあうとともに、随時、メールやファクシミリなど記録に残せる形で、利用者の状況をお知らせしている。金銭の預かりはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置するとともに、面会時にも、意見等を得るようにしている。意見要望等については、日誌等に、こまめに記録、共有(24時間以内に管理者まで到達)するなど、適切な対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内にある2つのグループホームの全職員は、この両ホームの夜勤を行っており、この夜勤を通じて全ての利用者に関わる体制を工夫しており、異動等があっても、顔見知りの関係が保たれるようにしている。特に、新任の職員については、概ね2週間のトレーニング期間を設けて対応するなど、馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、必要な都度、派遣するほか、その結果についてもミーティング等で伝達・共有している。特に毎年、グループホームの全国大会に参加し発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学があった際や家族介護者教室、夏祭り等に他の事業所の参加を得た際に、積極的に交流を図るほか、グループホーム協会(全国)に加入し情報収集等もを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人の自宅に訪問して、思いや生活実態を把握するとともに、家族からも入居時調査票を記入してもらうなどして、より具体的に実態把握したうえでの利用に努めている。さらに、自宅の状況をビデオに撮り、職員がその内容を共有して、利用開始後の支援に役立てる工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から畑づくりなどについて学んだり、協働する場面を通して、繋がりが深められ、支えあう関係が築かれている。なお、利用者との過ごし方としては、それぞれ利用者の求め、行動等に応じながら感謝したり、時には戒めあったりしながらケアに当たっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時、家族から「入居時調査票」を記入してもらい把握するほか、利用開始後は、職員が記入する「入居後調査票」により、その思いや意向の確認・検討を重ねている。その他、普段の会話などを通して、思いや意向を把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の記入する「入居時調査票」や、職員の記入する「入居後調査票」を基に、再度、家族等の意見等を得るなどして、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヶ月)に、また心身の状況の変化に気づいた時点で、随時、職員の記入する「入居後調査票」により管理者が評価し、家族等の確認を得て、必要な見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物やドライブ(花見など)、通院や理美容への外出支援など、本人・家族の希望に合わせて可能な限り柔軟かつ臨機応変な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する主治医となっており、受診については、基本的に、家族同行としているが、必要の都度、職員の同行や、また緊急時には協力病院の往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化等の対応指針を作成し、医療連携体制加算を得ている。重度化等の段階を踏まえて、家族に説明をしながら意向や意見をもらって、その対応等について職員で話し合い共有に努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時等の羞恥心への配慮については、常に心がけ注意しあうほか、「入居時調査票」により、一人ひとりが「何に傷つくのか」「何を誇りにしているのか」などを把握しながら、ケアに当たっている。記録等は、利用者ごとに色分けしたファイルに整理するなど、過ちの無いように工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れの中で、起床や朝食、外出など、常に、利用者の思いやペースに沿った対応に努めるほか、「入居時調査票」によって、一人ひとりが、どのようなリズムをもっているか、どのような過ごし方がしたいのかを把握しながら、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「入居時調査票」により、食事の好みを把握するほか、皆で作り育てた野菜を取り入れた献立を作るほか、食事の調理等準備、下膳・茶碗拭き等片付け等は利用者と職員と一緒に、食事も和やかに、介助なくマイペースで摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後の時間帯を基本としている。利用者の多くは自立した方であり、それぞれの入浴に対するこだわり(一番風呂、入浴剤など)があり、職員が苦労と工夫をしながら、その対応に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備から片付け、誕生会の準備やパーティでの発声等の場面で、利用者一人ひとりが役割意識を持ち、買い物やドライブ、トランプなどを通して、楽しんだり気晴らしをしながら生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ等、利用者一人ひとりの思いや希望に沿った外出支援を行うほか、散歩や畑づくり、ベランダでの外気浴など、屋外で気分転換が図れるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に、目配り気くばりを通して、鍵をかけないケアを心がけている。一人で外出した際には、遠くでの見守りに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、同一敷地内施設と合同の避難訓練(火災)を実施している。地域の防災協力要請・体制づくりは特になされていない。	○	運営推進会議の意見等をいただきながら、火災のみならず地震等を含めた、防災への地域の協力体制づくり(災害ボランティア含む)を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎日記録するほか、利用者それぞれの状況に応じてパンなどでの対応もある。水分摂取については、2000ccを目安に見守りをしている。献立や栄養については、同法人内、栄養士からアドバイスを受けて偏りのないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、花、テレビやテーブル、ソファがゆったり配置され、家庭的雰囲気の中で、利用者が常に出入りができるように、リビングと台所は一体的に配置され、トイレのドアには、目印(赤色表示)をつけて、迷いのないようにしたり、音楽を静かに流して、居心地の良さを演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた鏡や整理タンス、本棚、仏壇・絵画、写真などを、それぞれ持ち込んで思い思いに住まいできるように支援している。		